

春風秋霜 7月号

令和4年7月21日
島田市教育委員会だより
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 中南米の国について

色々な方から、コロンビア共和国ってどんな国ですかという質問をいただきます。今日は、中南米にあるコロンビア共和国について少し話をしたいと思います。

中米で有名な国はやはりパナマ運河がある「パナマ共和国」ではないでしょうか。1500年初めに、パナマはスペインの植民地となり、1821年にスペインから独立するまで、スペインの植民地として、栄えていました。(パナマは、昔、コロンビアだったのです。)

当時、中南米の国々は、スペインの植民地でした。スペインからの独立運動に貢献した「シモン・ボリバル」という人は、スペインから独立した後、中南米の国々を統一しました。その領域は、現在のベネズエラ、コロンビア、エクアドル、パナマの全てと、ブラジル、ガイアナ、ペルーの一部に相当し、大きな国を作っていました。1819年から1831年まで大コロンビア(グラン・コロンビア)を作ったということです。私も、パナマに行きましたが、公園には「シモン・ボリバル」の銅像が立っており、スペインから独立したときの英雄として扱われていました。ブラジル以外の南米の国で使われている言語は、全てスペイン語です。当時、スペインが、それらの国を統治していたということです。当時のスペインが、どれだけ力があつたかがよく分かります。

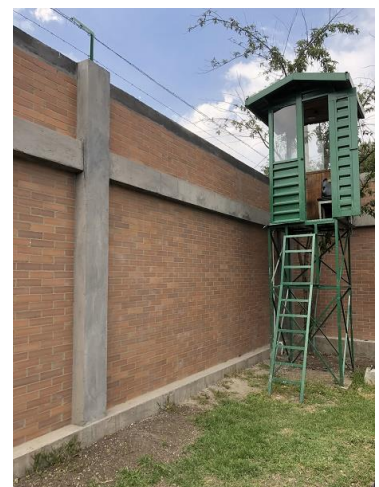


＜現地の結婚式の様子＞

それでは、現在のコロンビア共和国について話をしたいと思います。

私は、2年間コロンビア共和国の首都ボゴタにある日本人学校に勤務しました。そこで、日本と違った人々や文化にふれることができました。地球儀で見ると分かりますが、コロンビアは、ちょうど日本の反対側にあります。コロンビアの人口は、2020年で5088万人くらいです。国土面積は、日本の3倍くらいになります。また、人口の95%以上がキリスト教徒であり、そのうちカトリックが90%程度とされています。ボゴタ市内には、教会も多く熱心な信者が多いとコロンビア人が言っていました。

コロンビアの人たちは、とても明るくフレンドリーな人が多いと思います。パーティーなど楽しいことが大好きで、結婚式などは、お酒を飲んで、しゃべって、踊ってという感じでした。まだコロナ感染症が出る前でしたから、大声でしゃべっていました。私も、コロンビア人の結婚式に参加させてもらいましたが、楽しく過ごしました。



＜校舎を囲む高い壁＞

コロンビアと言えば、やはり、ゲリラと麻薬を思い出す人が多いと思います。多くの日本人が、ガードマン兼運転手を雇っており、ガードマンは拳銃を持ち、万が一の時の為に警護に当たってくれて

います。何かあったら必ず守ると言ってくれていました。学校は3m程度の城壁に囲まれており、ガードマンが警護に当たっていました。

2 江戸しぐさについて

今回は、江戸時代のことについてお話をしたいと思います。島田市内の小学生は、修学旅行で東京に行きますが、東京都墨田区にある「江戸東京博物館」を見学に行く学校があります。私も何回か見学に行きましたが、そこでは、江戸時代の様子が分かりやすく展示されています。ぜひ一度行ってみてください。楽しい所です。

さて、今回は、江戸しぐさについて話をしたいと思います。江戸しぐさは、当時の人たちが、気持ちよく過ごすための知恵だと言われています。現代にもつながっているしぐさがありますので2つほど紹介します。(博物館は、現在、改修工事中だそうです。)

<傘かしげ>

- ・雨の日に道ですれ違う時に、お互いの傘を外側に傾けて、相手が濡れないようにするしぐさ。

<横切りしぐさ>

- ・人の前を通る時に、手刀を振って通ること。(おっと、ごめんなさい。という感じですね)

このようなしぐさは、相手のことを考えた良い習慣だと思います。

肘かけ椅子

「まあまあ」で過ごせたら

教育委員 原 喜恵子

群よう子さんの「まあまあの日々」というエッセイを読んだ。

最近、気持ちが楽になりそうな本ばかり手に取ってしまうが、この本も同様に半日で読み切ってしまった。

日常生活で感じていることを綴っているが、どの項目を読んでも「そうそう、そう思う」「私も同じだ」「似たような経験をしたよ」という内容ばかりだ。

テレビに出ているアイドルの顔は、皆同じに見えて区別がつかず、曲に合わせて体を動かしてもすぐに息は切れるし、夫と話をしても「あれ」「それ」の指示語ばかりで、話がかみ合わないし……

エスカレーターに乗ろうとしたときのエピソード(タイミングが合わず足が出ない)は、何十年か前に義母が「エスカレーターが怖い」と言い出した時に「なぜ?」と思ったが、今、まったく私も同じ感覚を持つようになった。年齢を重ねるということは、このような動きの一つ一つに不安や恐怖を感じたり、周りの人への迷惑を考えたりしていくことなのだ痛感した。

ふと、作者の群さんのお年は?と思い調べてみると、1954年生まれ。なんと私とほぼ同じ。私ぐらいの年齢の人はみんなこんなことを感じているのかなあ。他の人と同じということで安心したわけではないけれど、妙に納得した自分がいた。

とにかく、ひたひたと近づいてくる加齢に落ち込むこともあるけれど、私も群さんのようにこれからは様々な出来事を楽しく受け止め「まあまあ」で過ごせたらよしとしていきたいと思った。